



けやき

平成30年12月6日
東村山第六中学校
学校だより
12月号

あいさつがあふれる学校

校長 小林 正隆

師走を迎え、寒さが増して、足早になるこの季節、街中で点灯されているイルミネーションの輝きに、「今年もあとわずかだ」と、名残惜しい気持ちになります。8月31日から始まった、長く、そして行事等の多かった2学期も、後3週間弱で終わろうとしています。今学期を振り返ってみて、生徒たちの成長には目を見張るものがありました。毎日の勉強に真剣に取組み、クラスをまとめて合唱を行ったり、部活動に打ち込んだりと、どの生徒も充実した2学期を過ごせたことと思います。

ちょうど今、3年生の進学のための面接練習をしています。その中で「六中のよさはどんなところですか。」という質問に対して、全員が「あいさつが活発な学校です。」と答えます。私も、廊下ですれ違う多くの生徒たちが、笑顔であいさつをしてくれることが強く印象に残っています。笑顔のあいさつは心をとて和ませてくれて、嬉しいものです。

さて、皆さんは『心のオアシスづくり』という運動を知っているでしょうか。日本語の美しい4つのあいさつを広げようとする運動です。オアシスのオは「おはようございます」アは「ありがとうございます」シは「しつれいします」スは「すみません」のスです。あいさつは「心の鏡」とも言われます。心が曇っていると、くもったあいさつになります。心を閉じているとあいさつはできません。あいさつはその時々自分の心を映す鏡なのです。いつでもどこでも、その場に相應しい明るいあいさつができる人は魅力的な人だと思います。

心を映すのはあいさつだけではありません。あいさつのように、心のありようは「心づかい」や「おもいやり」として態度や行動に表れます。詩人宮澤章二さんは、「『こころ』は誰にも見えないけれど『こころづかい』は見える」「『思い』は見えないけれど、『思いやり』はだれにでも見える」と言っています。友達が困っているときには、助けてあげたり、相談にのってあげたり、そういう心づかいや思いやりが自然と笑顔でできる人はとても魅力的です。六中生一人一人が、思いやりと心づかいのできる魅力のある人になってほしいと願っています。

最後になりましたが、今学期も、本校の教育活動にご支援、ご協力を頂き有難うございました。来年もどうぞよろしくお願い致します。

どうぞ良い年をお迎えください。